

平成28年12月1日開会

平成28年第4回東松島市議会定例会

## 議員一般質問通告書

東松島市議会

## 《 議員一般質問 目次 》

平成28年第4回定例会

順位	氏名	件名	頁
第1位	熊谷 昌崇	1 雇用の向上について	3
		2 金融教育について	4
第2位	五ノ井 惣一郎	1 市政執行の動向について	5
		2 東松島市民満足度調査による今後の対応は	6
		3 行政区長制度見直しによる地区自治会移行の進捗は	7
第3位	古川 泰広	1 鳴瀬桜華小学校移転と避難道路について	8
第4位	小野 恵章	1 公共施設の改修、修繕について	9
		2 所庭・園庭の芝生化について	10
		3 空き家バンク事業について	11
第5位	小野 幸男	1 復興に向けての問題を問う	12
第6位	阿部 としゑ	1 学校現場を問う	13
		2 女性の防災力向上を問う	14
第7位	大橋 博之	1 総合型地域スポーツクラブの設立手法は	15
		2 アクティブシニア応援ポイント事業を検討せよ	16
第8位	熱海 重徳	1 J R 東矢本駅の整備について	17

第9位	長谷川 博	1	さらなる子ども医療費の拡充を	18
		2	子どもの貧困について	19
第10位	佐藤 筐子	1	がん検診の受診率を高めよ	20
		2	復興団地の整備は環境整備も重要視せよ	21
		3	給食に原発事故対策のメニューを	22
第11位	多田 龍吉	1	豪雨時の排水対策について	23
		2	一部の災害公営住宅の防風対策について	24
第12位	五野井 敏夫	1	市民協働によるまちづくりについて	25
		2	2020年のオリンピックに対する対応は	26
第13位	木村 清一	1	東日本大震災復旧・復興状況の周知機会の拡充について	27
		2	公共公益施設のトイレ整備・改修計画はいかに	28
第14位	菅原 節郎	1	学力向上について	29
第15位	佐藤 富夫	1	震災、災害時の議会の位置付けについて	30
		2	食育教育の中に食の循環を取り入れよ	31

【質問者数15人 ・質問件数29件】

氏名	件名	要旨
<p>第1位</p> <p>熊谷昌崇</p>	<p>1. 雇用の向上について</p>	<p>先日、企業誘致の先進地である長野県岡谷市へ議員視察に行ってきた。そこで私が感じたのは、全国の自治体が競って補助金やベンチャー企業が使いやすい環境を整え誘致をしていますが、人口減少社会の今、投資した額など到底回収できるはずもないというようなものである。結果的には市民の雇用に役立っているが税金での回収はかなり厳しいというような状況であった。</p> <p>昨今、10年後に無くなる仕事という言葉聞く機会が増えたと思う。経営者目線でいえば、経費を減らして収益を確保するのは至極当たり前の行動であり、人件費を減らすのは当然である。そこで、市民が何らかの資格を持っていれば就職活動に有利に働くと思う。例えば、宅地建物取引士は不動産事業の従業員5人に1人は必ず必要な資格である。これらの様に市民に専門的知識を取得する機会を提供し、企業が必要とする人材の育成を積極的に進めるべきと思うが市長の考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
熊谷昌崇	2. 金融教育について	<p>国民の3大義務…納税の義務、勤労の義務、教育の義務があるが、大抵の人は社会に出て初めてお金を稼ぎ、そこから税金が徴収された残額で生活をする。しかし、世の中を見ると、年金を受け取る直前になって、国民年金はこれしか貰えないのか等と話す人々が沢山いる。それで足りないのなら付加年金の制度もあるが、そういった制度を知らない人々がほとんどである。そもそも、ひと月に1万数千円の掛け金で老後に必要な生活費を賄おうと考えるのは人生設計を何も考えていない、考えられない、考える余裕がないのではないか。日本人はお金を汗水たらして働くことを美德とする風潮があり、株等の投資活動を卑下する人々も多いと思うが、年金や銀行等の預貯金、原油等の取引はお金の運用で成り立っており、確定拠出年金等の選択も就職後に選択する機会もこれからは多いと思う。また、近年政府はNISA等の制度を創り投資を促し経済の活性化を推し進めている。そこで、人生設計をしていく中でのお金を上手に道具として使っていくための知識を初歩的なこと。(例えば、円高とは、インフレとは、超低金利社会といったこと)から学ぶべきではないかと思うが、市長及び教育長の考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第2位</p> <p>五 ノ 井 惣 一 郎</p>	<p>1. 市政執行の 動向について</p>	<p>早くも大震災から6年目になろうとしている。復興、復旧も順調に進み、20日には、最後の集団移転宅地である野蒜復興団地で福幸まつり・宅地引渡し式が行われた。市長は本年度の予算の所信表明で、3つの基本方針と次の分野別施策として8つの分野別方針を述べられた。</p> <p>(1) 郷土の自然を保全し、資源を大切にす。</p> <p>(2) 命を守る備えに地域で取り組む、安心で安全なまち。</p> <p>(3) 健康意識が高く誰もがいつまでも元気に暮らせる。</p> <p>(4) 子どもたちが伸びやかに育つ。</p> <p>(5) 生涯を通じて学び、習得し、実践できる。</p> <p>(6) 快適で便利で誰もが住み続けたい。</p> <p>(7) 働きがいのある魅力的な産業がある。</p> <p>(8) 市民と行政が信頼で結ばれる。</p> <p>議会は、予算総額778億円を審議・可決している。28年度も後半に入り、新年度の予算のヒヤリング中と思うが、所信表明に於ける(1)～(8)の動向について、また、次期立候補しないことを表明しているが、どのように継承して行くか伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
五ノ井惣一郎	2. 東松島市民満足度調査による今後の対応は	<p>18歳以上1,500人を対象に市民満足度調査の結果が報じられた。満足度1位は、4年連続で防災・防犯分野で「自主防災組織の整備」、最下位は2年連続で産業振興分野の「企業誘致・就業情報・雇用対策」となっている。今後、ますます少子高齢化が進むなか、市民が東松島市に住んでよかったと言われるような「まちづくり」が必要である。下位にランクにされている「騒音対策や雇用、企業誘致等はしっかり対応していきたい」と述べている。議会でもこれらは毎回のように提言されている。復旧・復興が順調に進む中、早急な重要課題と認識するが、考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
五ノ井惣一郎	3. 行政区長制度見直しによる地区自治会移行の進捗は	<p>長らく続いた区長制度が廃止になり、来年4月1日から地区自治会に移行される。すでに26年度から試行的に運用されている地区もあるが、現在、地域の役員が、懸命に移行に努力している地区もある。来年4月からは一斉に地区自治会がスタートしなければならないと思うが、移行の進捗について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>



氏 名	件 名	要 旨
<p>第3位</p> <p>古 川 泰 広</p>	<p>1. 鳴瀬桜華小学校移転と避難道路について</p>	<p>鳴瀬桜華小学校の移転地については、市役所鳴瀬庁舎北東の旧小野区有山と決定し、移転地への接続道路に係る関係地権者への説明会が行われ、すでに現地には幅杭が設置されるなど、移転に向けた関連工事の準備が進められているが、住民から要望のあった避難道路については不透明である。以下について伺う。</p> <p>(1) 平成27年11月に行われた鳴瀬桜華小学校復興方針説明会時における平成32年度供用開始に向けた基本スケジュールの考えは変更されていないか。</p> <p>(2) 宅盤高GL9.5m、宅盤面積4.22ha（うち学校敷地面積16,700㎡）のイメージ図（案）が示されているが基本計画策定の現状について。</p> <p>(3) 牛網地区から新桜華小学校敷地までの通学路も兼ねた避難道路を設置すべきと思料されるが伺う。また避難道路に関連して現在施工中の各避難道路の工事進捗については予定行程通り進められているか。</p> <p>(4) 桜華小学校移転地への接続道路の田町・宮前線の幅員構成について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第4位</p> <p>小野惠章</p>	<p>1. 公共施設の改善、修繕について</p>	<p>本市の公共施設については、平成25年度に公共施設再建・再編基本計画、今般10月26日、公共施設等総合管理計画の概要版が示された。今後、厳しい財政状況の中、投資的経費の増加、施設等の経年劣化等に伴う維持経費の増加が懸念される。計画では総量的には、将来20%縮減することを目標としている。また、最終案は、この12月にも示されるとしているが、以下を市長に問う。</p> <p>(1) 各市民センター、地区センターの改善、修繕要望にいかに応えていくのか。また、市民協働のまちづくりを進める上で、地区センターの市有財産からの移行は、あり得る課題となるのか。</p> <p>(2) それぞれの修繕、改善の優先順位の在り方について。</p> <p>(3) 本庁舎2階の喫煙室を改善すべきと考えるが、いかがか。</p> <p>(4) 上町地区学習等供用施設のエレベーター設置計画を示せ。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
小 野 恵 章	2. 所庭、園庭の芝生化について	<p>保育所の所庭、幼稚園の園庭はもとより小中学校の校庭の芝生化については、以前の一般質問において提案してきた。矢本西保育園こども広場の園庭の芝生を目の当たりにし、また先日の協働教育講演会のコミュニティスクールの取り組みの中の紹介事例を聞き、本市の芝生化に対する考えを再度伺う。</p> <p>また、検討の結果を問う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
小 野 恵 章	3. 空き家バンク事業について	<p>地方創生先行型事業として、国から支援を受け、本市への移住、定住化を促進するため、昨年度から事業化させたが、今後の取り組みを伺う。</p> <p>ほかの自治体も同様な施策を行っており、特に官民連携が必要な施策と認識している。関係関連する企業、団体、個人等との協議が必須と考える。そのための協議の場を設けて事業推進すべきと思うがいかがか。</p> <p style="text-align: right;"><b>【答弁を求める者 市長】</b></p>

氏名	件名	要旨
<p>第5位</p> <p>小野幸男</p>	<p>1. 復興に向けての問題を問う。</p>	<p>去る11月20日に待ちに待った野蒜地区の福幸まつりが盛大に行われ市長はじめ職員、関係機関の皆様にも心より感謝する。ハード部分の整備もほぼ終着点が見え、今後は新たな地域の再生に矛先を変えながら市の発展を望むものである。しかしながら地域の課題は多いことから以下の点について伺う。</p> <p>(1) 野蒜ヶ丘地内への市民農園の設置の考えについて伺う。</p> <p>(2) 野蒜駅から東名駅にかけての市道一号線の交通安全対策は大丈夫か伺う。</p> <p>(3) かんぼの宿も解体がほぼ完了したが、運河から海岸堤防の間の広大な面積である被災沿岸部（浜市地区、宮戸地区）の跡地利用についても伺う。</p> <p>(4) つい最近になり、野蒜海岸の防潮堤併設の県道完成予想図が掲げられたが、安全確保と対策が見当たらないが調整はどうなっているのか伺う。</p> <p>(5) 幾度となく県と調整している大高森の薬師堂の修繕について、文化財的要素も含むことから県と市との調整はどうなったか伺う。</p> <p>(6) 土地改良区の抱える震災で崩落した川下地区内の用水確保のトンネル整備への支援について</p> <p>(7) 復興に向けての地域の人材育成にどう取り組むのか、また、少子化対策を含めた定住促進も復興には欠かせない問題である。力強くリーダーシップを発揮されたいが、今後の展望について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第6位</p> <p>阿 部 と し る</p>	<p>1. 学校現場を 問う</p>	<p>いじめを広くとらえるよう国が学校に促した結果、2015年度のいじめの数は過去最多の22万件になった。「1件でも多く発見を」という姿勢が浸透しつつある。こうした中、全国各地で学校や教育委員会が被害を把握しながら「重大事態」ととらえていなかった例がいくつもある。いじめとの向き合い方に深刻な温度差があることも明らかになっている。</p> <p>(1) 本市のいじめの現状。  (2) 問題の過小評価が子どもの声をかき消していないか。  (3) いじめに対しての対応は万全か。</p> <p>先日「交流と学び at akai」授業参観・研修会が赤井小学校であった。相澤秀夫前宮城教育大教職大学院教授による5年生の授業である。  握手でコミュニケーションをとり、素晴らしいとほめる。  答えが1つではない。違った答えを教えてくれた隣の人、クラスの皆に感謝。本当にあったかくてやさしい授業だった。</p> <p>(1) 教育委員会では、あの授業を聞いてどのように今後 に生かそうと考えているか。  (2) 1人でも多くの保護者や先生方にあの授業を見てほ しかったが、これからの計画は。</p> <p>新しい学びのシンポジウム「地域とともにある学校づくり」に参加して、これからのコミュニティスクールについて問う。</p> <p>(1) 鳴瀬地区のコミュニティスクールづくりについては、一歩進んでいるように思えるが、矢本地区の各学校へのコミュニティスクールづくりへの周知をどのようにすべきと考えているか。  (2) 聞きなれないコミュニティスクール導入には学校の不安や地域の不安があるが、どのように指導していくのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
阿 部 と し る	2. 女性の防災 力向上を問う。	<p>東松島市内においても各地区で防災意識を高めようと 防災研究会等が行われている。</p> <p>こうした中、石巻でも「男女共同参画・多様な視点から の防災実践講座」が県主催であった。</p> <p>外国人や女性などさまざまな立場から見る防災や減 災について理解を深め、自分の身は自分で守ることの大切 さを学んだ。</p> <p>本市においても、女性のための防災リーダー養成講座が 3回にわたって行われた。</p> <p>(1)「防災、減災に女性の力を活かす」</p> <p>(2)「東松島市地域防災計画を知ろう」</p> <p>(3)「避難所運営ワークショップ」</p> <p>25人の参加者のほかにスタッフとしてサークルコロ ッケのメンバーが参加した。</p> <p>子どもや高齢者や介護の必要な方等の避難生活にとっ て、女性の存在はなくてはならないものである。</p> <p>今後、女性の防災意識向上のためにも、ますますこうい った講座を設けるべきと考える。</p> <p>女性の防災力向上のため、今後どのように進めようと計 画しているか伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第7位</p> <p>大橋博之</p>	<p>1. 総合型地域スポーツクラブの設立の手法は</p>	<p>前回の定例会において健康寿命の延伸のためにも「健康スポーツ都市宣言をすべき」と提案したが、宣言はせずに現在取り組んでいる事業を普及拡大していくとの答弁であった。市長・教育長の答弁の中で今後各年代対象のスポーツの充実に加え、市民が手軽に参加可能な軽スポーツ等の充実が図られるために総合型地域スポーツクラブの設立が有効であると答えていた。</p> <p>また、スポーツ活動のみではなく、高齢者年代に対して長寿健康教室、成人病教室などへの講師の派遣や、教室等の内容への相談など保健福祉分野と連携しながら方策を考えていくとのことであった。</p> <p>総合型地域スポーツクラブについては、民生教育常任委員会の所管事務としても取り組んでいるところであるが、基本方針や今後の取り組み手法について理解出来ない部分が多い。改めて、教育長に具体的な方針について伺う。</p> <p>また、他分野の連携推進について市長に伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>



氏 名	件 名	要 旨
大 橋 博 之	2. アクティブ シニア応援ポ イント事業を検討 せよ	<p>10月に民生教育常任委員会の所管事務調査で神奈川県小田原市を訪問した際に、アクティブシニア応援ポイント事業について調査してきた。</p> <p>平成25年にスタートした事業であり、60歳以上の市民の潜在的な活動意欲を少子高齢化により今後人手不足の加速が見込まれる。</p> <p>介護保険施設等のボランティアとして活躍につなげ、またボランティア本人の介護予防も図るというものである。</p> <p>詳細については職員も同行したので割愛するが、いきがいを持ちアクティブに活動することが健康寿命の延伸にも効果的と考える。</p> <p>この仕組みを構築することにより、介護関連だけでなく、自治会活動、子育て支援等で活用できるシステムではないかと考える。</p> <p>是非、東松島市でも導入すべきと考えるが市長の所見を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第8位</p> <p>熱</p> <p>海</p> <p>重</p> <p>徳</p>	<p>1. J R 東矢本 駅の整備につ いて</p>	<p>以前も伺った停車駅の改正についてその後の進展状況を伺う。また、駅を利用しやすくするために北側出入口や駅を境とした南北の車道整備などが今後必要と思われるが市長の考えは。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第9位</p> <p>長</p> <p>谷</p> <p>川</p> <p>博</p>	<p>1.さらなる子ども医療費の拡充を</p>	<p>本年9月議会一般質問で本市の国保税の現状を質した際、子ども医療費についても触れた。子ども医療費助成に取り組む自治体に国の補助を減額するペナルティーが科されている。これに対して、全国知事会・市長村会などが強く廃止を求め、国が見直しを検討している事案を質した。その際「国は廃止する方向で検討しており、ペナルティー分として、未就学児分で約579万円、15歳までの分で575万円の歳入増と見込む」と答弁。一方で、8月下旬、宮城県が子ども医療費の対象を通院部分で29年度から（現行の3歳未満から）就学前まで拡大すると公表した。</p> <p>このことから、国のペナルティー廃止となる分の約1,200万円と宮城県の対象拡大分を、財源として子育て支援、子ども医療費無料化拡大に充当するよう検討を求めた。市長は「内部で財源確保などを精査する」と答弁。</p> <p>事後に、県内自治体の状況を調査すると、県の助成拡大決定もあって本年10月1日から9自治体が子ども医療費助成の拡充を決定、そのうちの4自治体、栗原市、蔵王町、利府町、南三陸町は18歳・高校卒業まで無料化拡大した。このことにより宮城県内35自治体中、1市13町1村で18歳・高校卒業までの医療費無料化に取り組む現状となりました。</p> <p>この際、本市においてより子育てしやすい環境づくり、子ども医療費無料化の対象拡大を進めるべきと考えるがどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
長谷川博	2. 子どもの貧困について	<p>本年9月議会一般質問で阿部としる議員が「貧困家庭の子どもの現状」について質した。答弁で「国は26年1月、子ども貧困対策推進法を施行。宮城県では28年3月、宮城県子ども貧困対策計画が策定され、貧困の解決に向けた取り組みが進められている」とし、一方で「本市では、貧困家庭の子どもの現状の詳細については把握しておりませんが、国が発表した貧困率から、特に、ひとり親家庭の半数以上が貧困であるとの調査結果も出ており、本市においても例外ではないものと推測できます」また「過去3年間（平成25、26、27年度）の児童扶養手当の受給者数は横ばいで推移」などとし、更に各種手当や医療費助成をはじめ具体的な支援施策に言及。「この貧困の連鎖を断ち切っていくため、宮城県からの情報及び動向を得ながら、ライフステージを通して切れ目なく子どもや家庭の状況をトータルに把握し、実態をつかみ、連携し進めていく必要があると考えている」としている。</p> <p>そこで何うが、「子どもの貧困対策法」が成立した背景には、貧困と格差の広がりによって、親の失業や低い収入、病気、離婚など家庭の経済状況の悪化に伴い子どもの貧困が深刻になってきたことによるものと考え。国・県の役割はそれとしても、多くの場合、貧困の現場と直接向き合うのは末端自治体であり、市として深刻化する「子どもの貧困」の状況をよくつかむ必要があり実態調査をするよう求める。また「宮城県子どもの貧困対策計画」によれば、子どもの貧困の現状について（P3）2子どもの貧困率の項で「わが国の子どもの貧困率は平成6年から上昇傾向にあり、平成24年には過去最高の16.3%（おおむね子どもの6人のうち1人の割合）となっています」また「子どもがいる現役世帯の相対的貧困率は15.1%であり、そのうち大人が1人の世帯の相対的貧困率が54.6%と、大人が2人以上いる世帯に比べて非常に高い水準となっています」とある。この指標に照らして本市の貧困とされる子どもの人数、世帯をどの様に捉えるか。一方、18歳未満の子どものいる家庭の平均所得の2分の1（貧困線）を下回る世帯はどの程度か。また、本市でも家庭の経済的な格差が教育の格差につながらないように様々な対策が講じられているが、義務教育学校のセーフティネットともいえる就学援助の支援は十分行われているか、周知や案内、認定要件、申請方法、給付内容について何う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第10位</p> <p>佐藤 筐子</p>	<p>1. がん検診の受診率を高めよ</p>	<p>前回の9月定例会において検診の結果が参考資料として渡され、各種がん検診の再検者受診率が低い結果がわかった。早期発見・早期治療により完治も期待されるがん検診も受診率を上げる工夫をすべきと思われるがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
佐藤 筐子	2. 復興団地の整備は環境整備も重要視せよ	<p>復興計画により次々と団地が出来上がり、被災され仮設住宅あるいは市外に住む市民の皆さんには期待と希望のある団地への移転となる。しかし、住んでみての不安や不自由さを感じる声上がるのはなぜだろうか。</p> <p>用意された土地に建物が建っただけではなく、そこに住む時の暮らし24時間や団地内の動線もシミュレーションしてみると、現在の団地から次の団地への不安・不満・不自由さへの解消になると思われるが市長の考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;"><b>【答弁を求める者 市長】</b></p>

氏 名	件 名	要 旨
佐藤 筐子	3. 給食に原発事故対策のメニューを	<p>先月の新聞に「食生活で被ばく低減」という記事が載った。福島第一原発事故の影響について福島県などに住む18歳未満の子ども4,410人を調査した結果、大部分の子どもが甲状腺がんの危険性を減らすために普段から十分な量のヨウ素を食品から摂取していたという研究結果を福島県の病院などのチームがアメリカの専門誌「サイロイド」に発表したというもの。このことを踏まえ、UPZの範囲にいるわが市としても家庭の食事や給食にヨウ素を多く含む食品の摂取を進めるのは得策と思えるが市長・教育長の考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;"><b>【答弁を求める者 市長・教育長】</b></p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第11位</p> <p>多 田 龍 吉</p>	<p>1. 豪雨時の排水対策について</p>	<p>震災復興の最中ではあるが、気象変動に伴う豪雨被害が全国各地で発生している。最近では、北海道地方や岩手県岩泉町で、台風やゲリラ豪雨で甚大な被害を被っている。雨雲の流れによっては連続した豪雨が襲い、かつて経験したことのない降雨量となっている</p> <p>本市としてもゲリラ豪雨が来ないという保証はなく、新たな課題であるが、安全安心なまちづくりの観点から以下のことについて伺いたい。</p> <p>(1) 各排水機場の排水処理能力や、排水路等の断面積および勾配を基に、ゲリラ的降雨量による各地の予想冠水区域、および、冠水高などのシミュレーションをする必要があると思料しているが、このことについて。</p> <p>(2) 小野地区や牛網方面の排水は、長堀排水路に流れ、浜市排水機場で鳴瀬川に排水している。ところが、長堀排水路に土砂が堆積し、一部には背丈ほどの草が生い茂り排水障害になっている。<small>しゅんせつ</small>浚渫などの対策が待たれるが、このことについて。</p> <p>(3) 排水路に蓋をかけて道路敷きとしているところが矢本地区の国道や市道に多く見受けられる。排水機能の障害になる土砂の堆積や粗大ごみ等の障害物の堆積などが想定される。常には見えない個所だけに定期的に点検する必要があると思料するが、最近の点検の有無と、その対策について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>



氏 名	件 名	要 旨
多 田 龍 吉	2. 一部の災害 公営住宅の防風 対策について	<p>本市の災害公営住宅の建設と入居が順調に進み、あと一息だ。住宅そのものの評価も悪くないようである。入居後のアンケート調査を行っているようであるが、どのようなことが要望されているかまず伺いたい。</p> <p>先日、あおい地区の入居者から、北西の強風時には、危なくて玄関のドアの開閉ができないとの訴えがあり、玄関の向きによっては大変なことを確認している。引き戸ではなくドアなので大変危険である。完成した物件なので改良に要する予算などの工面が大変と思料しているが、これまで大きな事故の発生がないのが不思議であり、たまたまの幸いと解釈している。玄関の北西側に防風設備の取り付けを早急に検討すべきと思っている。このことについて伺いたい。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第12位</p> <p>五</p> <p>野</p> <p>井</p> <p>敏</p> <p>夫</p>	<p>1. 市民協働によるまちづくりについて</p>	<p>市長は本市のまちづくりの基本理念を市民協働としている。その理念が市民にどのように理解され、市民活動に反映されたか次の点について市長に伺う。</p> <p>(1) 市民活動にどの程度理解されているか。</p> <p>(2) 住民自治制度の改正を平成29年度としているが、協働の理念は十分に反映されるか。</p> <p>(3) 震災により7カ所の移転事業を実施しているが、住民は協働の精神を現在、将来へ継続し、地域づくりにどう生かすべきか。</p> <p>(4) 市民が協働の理念を十分に理解し、住民活動実施した場合、自治体行政はどう変化するか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
五 野 井 敏 夫	2. 2020年のオリンピックに対する対応は	<p>2020年の東京オリンピック開催が決定し、従来からの種目の他に追加種目としてソフトボール、野球、空手などが追加された。本市においては、特にソフトボール競技とのかかわりが深く宮城国体ほか大学選手権大会などのビッグイベントを多々開催してきている。そのような実績、経緯を考えた時、ソフトボール開催会場あるいは公式練習会場としてはっきりとした意思表示をし、日本全国、全世界に震災からの復興をアピールし、復興五輪の一翼を担い、大震災の復旧、復興に応援、援助していただいた多くの皆様に感謝の意を表明すべきと思うが市長、教育長の考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第13位</p> <p>木 村 清 一</p>	<p>1. 東日本大震災復旧・復興状況の周知機会の拡充について</p>	<p>集団移転、災害公営住宅の整備はもとより、防災施設、学校施設および道路整備等大幅な事業進捗<sup>ちよく</sup>が見られるようになった。これらの状況は、市報、TV、インターネット等を通じ市民に広報されているが、市民側としての捉え方は表面的、断片的な感が否めない。総合的に捉えかつ実感していただくには、直接自分の目で見ても肌に触れることが重要。復旧・復興市民ツアー等を企画・実行してはどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
木 村 清 一	2. 公共公益施設 のトイレ整備・改修計画は いかに	<p>近年の公共下水道施設等の進展に伴い、水洗化とともに洋式トイレの普及が顕著となっている。トイレの改良も急速に進み、各家庭でも節水機能等経済性はもとより、暖房便座、ウォシュレット機能、温水機能、乾燥機能付きなど快適さが一段と向上するようになっている。一方、本市の高齢化率は26%を超える程度ではあるものの、2025年問題とされる高齢化の進行は避けられない状況にある。したがって足腰の不自由な皆さんの負担軽減を図ることができるよう配慮する必要がある。</p> <p>家庭の普及や高齢化の進行を見据えつつ、公共公益施設のトイレ整備・改修を着実に進めるべきだが、その対応方針を伺う。</p> <p style="text-align: right;"><b>【答弁を求める者 市長・教育長】</b></p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第14位</p> <p>菅原節郎</p>	<p>1. 学力向上について</p>	<p>毎年恒例となった感のある質問だが、去る4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果とその分析、課題と今後の改善方針について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第15位</p> <p>佐藤富夫</p>	<p>1. 震災、災害時の議会の位置付けについて</p>	<p>東日本大震災後5年超、私は当時議長職にあったことから、全国各所において、体験談を披瀝する機会を得ることができた。その場での質疑応答には必ずといってよいほど、災害対策本部での議会の位置付けを問われる。私は災害対策基本法第23条の2により、首長の考え次第ではあるが議論は大いにすべきと答えている。</p> <p>私は以前の関連もあって東日本大震災時の私の体験を踏まえ災害対策本部での位置付けを明確にすべきと提言した。つまり今現在においても、いざといときには議長ほかの自主行動に負うしかないということである。</p> <p>当時、私は責任の自覚の下、法の規格外の行動を多々取った。しかし結果的に復旧に寄与したことも事実である。もちろん、東松島市防災計画の組織図にもないことから前回の質問からどのように検討されたか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
佐藤富夫	2. 食育教育の中に食の循環を取り入れよ	<p>最近、あまり大きく取り上げなくなってきてはいるが、給食の食べ残しの問題がある。東松島市全体を考えると、学校給食で出る調理くずや食べ残しをどのように処理しているか。</p> <p>これらは何もしなければゴミ。手を加えれば資源である。私は千葉県を訪問した際、この生ゴミを肥料に変え地元農家に提供し生産された野菜を給食に使用することで、食材の循環による「学校給食を活用した地域活性化事業」を実施してることを学んだ。</p> <p>生物の命を食として取り入れることの尊さを知らしめることも教育の一環であることから、食育の教育に取り入れてはどうか。また、この事業は殊、教育委員会のみならず、地方創生の一つとして考えてみてはどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>



